



福祉体験学習

7月2日（月）に周南市社会福祉協議会から3名の講師の先生をお招きし、福祉体験学習を行いました。

まず初めに、福祉についてのお話を聞きました。福祉を「ふだんの くらしの しあわせ」と、わかりやすい言葉で説明していただきました。

また、周南市は65歳以上の高齢者が30%を超える、超高齢社会を迎えていることを聞き、生徒たちは福祉について自分のこととしてとらえることができました。そして、福祉についてまずは、知ること、そして理解することが大切であると学習しました。

次に、車いす体験と、高齢者疑似体験を行いました。初めて車いすに触れる生徒も多く、戸惑う場面もありましたが、実際に体験することで、相手のことを気遣うことの大切さなどを学ぶことができました。

【生徒の感想】

○車いすに乗ってみて、車いす生活をしている人の大変さが分かりました。そして、一人の人間として、尊重し、助け合いたいと思いました。福祉ということは何だろう？と分からなかったけど、今回の学習をして、人を助ける大切な役割なのだというのを学びました。

○私は今回の学習で、高齢者は大変なんだと強く感じました。たくさんのおもりをいろいろなところに着けて歩いてみました。体がとっても重くて歩くのも座るのも苦労するくらいでした。これからは、高齢者の気持ちを考えて、行動できるようにしたいです。

○車いすの体験をしました。段差があるところでは乗っている人が怖がらないように、なるべく前輪を高く上げずに気をつけるということが大切だと知ることができた。もしも家族の誰かが車いすに乗ることになったときには、気をつけて運転できるようにしたいです。

○この学習を通して、僕は今周南市は、高齢化が進んでいることが分かりました。その中でも超高齢社会と知り、とてもびっくりしました。これからの生活では、高齢者も一人の人として尊重することを今以上に思っ暮らしていきたいです。

○車いすの介助では、とても周りに気を配り、安心して座ってもらうための工夫をたくさんしていることが分かりました。自分はこの福祉体験学習を通して、高齢者にも気を配って生活したり、車いすの介助をする場合は周りに気を配り、安全に運転したりできるようにしていきたいと思いました。

